

チャレンジ工房 news

工房の日々 ～ 来年のカレンダー完成しました ～

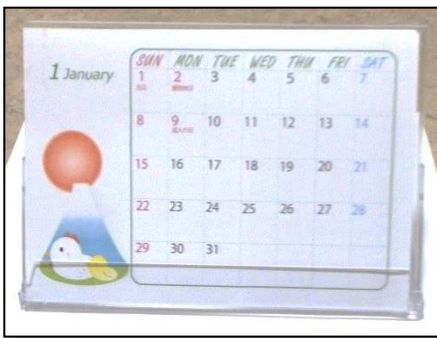
今月の市民まつりでの販売開始を目標にして、5月中頃より当工房のイラストレーターAyaさんと共に制作してきた来年2017年の「チャレンジ美術館カレンダー」「花言葉カレンダー」の2つのカレンダーが、今月上旬に完成しました。

「チャレンジ美術館カレンダー」は、Ayaさんがイラストレーターのグラフィックソフトを使って描いた優しいタッチのデザインを軸にしたカレンダーです。

今年も12ヶ月、それぞれの季節に応じた風物詩のイラストもあり、花や秋の味覚などのイラストもありの幅広いジャンルのイラストが描かれており、まるで美術館に行った雰囲気です。

Ayaさん作の「チャレンジ美術館カレンダー」も今回で4作目ということもあって、家族・友人そして私たち工房スタッフの期待もあつたり、「市民まつりまでに、何とかして作成しないとイケない」という使命感を背負ってのカレンダーの作成だったので、大変だったと思います。

4作目のカレンダー制作にあたってAyaさんが最も苦労した点は、チューリップや紫陽花などの花のイラストを立体的に描くことや月々の複数の風物詩や味覚のイラストをより一体的に描くことでした。



チャレンジ美術館カレンダー
500円

彼女も私の期待に答えてくれようとして、Ayaさんなりに工房と家で試行錯誤を繰り返しながら、何度も手直し・修正をしてくれ、オリジナル感があふれる作品に仕上げてくださいました。

昨年よりも彼女の頑張りや努力が詰まったカレンダーなので、1人でも多くの方々にご購入頂き、是非「チャレンジ美術館の世界」を楽しんで頂ければと思っています。

また、「花言葉カレンダー」も「和のデザインで大人らしくていいなあ」と昨年、多くの方々に好評頂いたので、表紙を「和傘を持った着物姿の女性」や桜・菜の花などの日本の名花で彩ったり、月々のカレンダー部分の和暦を漢字で書くなど昨年より和の雰囲気を出すようにこだわって作りました。

立ち上げ当初から色々とお世話になっている木口福祉財団様より41万円を助成して頂き、業務用のレーザープリンターを購入することが決定したので、A3の大判な壁掛けカレンダーや、和紙を使ったポストカード・便せんなどの新たなオリジナル自主製品の開発にも手掛けていきたいと考えています。

10月・11月の予定

10/20(木) 尼うえるフェア
市役所 1F ロビー
10:00～15:00

11/12(土) 市民福祉のつどい
橘公園噴水広場
10:00～15:00

Ayaさんも年々カレンダーで使う一つひとつのイラストのパーツは、上手に描くことができるようになってきているので、私もカレンダーの完成が近づくのにつれて、「去年より、1つでも多く売れてほしい」という思いで、「紫陽花の花びらは薄い花びらと少し濃いめの花びらを描いて、交互に重ねていくことでより立体的に描いてみたら」と実際にレクチャーしながら彼女にアドバイスをしました。



花言葉カレンダー
500円

市民まつりに参加しました・・・

今月の8・9日二日間にわたって、阪神尼崎駅一帯で尼崎市制誕生100周年を祝っての「尼崎市民まつり」が開催されました。

当工房は、昨年に引き続きアルカニックホテル前の芝生広場の「東北支援の広場」でかりんとう、味みそやクッキーなどの「東北の障害者作業所の製品」を販売するブースを出店しました。

その一角で、当工房の来年のカレンダーとポストカードのオリジナル自主製品の販売をさせて頂きました。

今年は、二日間の長丁場での販売だったので、所員さん・友人所員さんやスタッフ・所員のお母さんたちが交代で手伝ってくれました。

「少しでも東北の支援につながれば・・・」と一人でかりんとう・クッキーなどを何袋もお買い求め頂いた方もおられれば、「福幸だるま」を手にとりてみられていた男性の方は、「倒れてもすぐ起き上がるところが縁起よさそう」と買って行かれました。

21年前の阪神大震災での苦い経験や熊本地震などより、私たち誰もが、「地震災害からの復興」に関心を寄せている中で有り難いことに二日間で東北から取り寄せた品物をほとんど完売することができました。



私も昨年、水泳の日本選手権で仙台に行って少し被災地を歩いてきたのですが、海岸に近づくにつれて枯れ木まみれの荒地ばかりでした。

震災から丸5年半経った今でも津波地震が残した傷跡は根深く、「完全復興」まではまだまだ月日が必要とされそうなので、これからも引き続き販売支援をしていくことで東北の障害をもつ仲間や東北の復興の一助になればと思います。

「東北支援の広場」では、東北被災地支援ボランティア等のパネル展示や遊具コーナー、ゆるキャラショーなどがあったので、子ども連れの家族で賑わっていました。

ぷりぱカフェにお邪魔しました・・・

尼崎障害者事業所のお仲間の「地域共生スペースぷりぱ」がディサービスの活動の一環で、新しく今月からカフェをオープンされました。

先月「ぷりぱ」に馴染みがある人や市内の障害者団体や障害者事業所などが招かれてのプレーオープンがあり、Ayaさんも工房に来る日以外は、「ぷりぱ」に通所してて、今回カフェの店員のメンバーになるとのことで彼女の活躍ぶりをみにお邪魔してきました。

一瞬どこかの街中のカフェに来たのかなあと感じたほど、白を基調にした内装で木の温もりがするテーブルがあったりして、とてもおしゃれなカフェでした。

今月のオープンに向けて、数名のメンバーさんが職員さんのサポートを受けながら、接客や掃除の練習を頑張っていました。

Ayaさんも最初緊張気味だったようでしたが、私が行くと「いらっしやいませ」とニコッと笑ってくれて出迎えてくれました。

ケーキプレートとコーヒーをご馳走になったのですが、どれも素材にはかなりこだわっておられるみたいでヘルシー感もあって美味しかったです。

帰るときに、「ぷりぱ」の所長さんとお話する機会があり、「Ayaさんパソコン工房に行ってるだけのことがあって、カフェのメニュー作りすべて引き受けてくれたんですよ」と嬉しい話を聞かせてもらうことができました。

私たち重度障害者が企業や一般のカフェ勤めることは、まだまだいくつかの解決していくべきソーシャル的な課題が山積みで難しいですが、少しずつでも一人ひとりの障害の特性や能力に応じて活躍できる場が増えていくことを願っています。

